

午後 2 時 2 2 分 休憩

午後 2 時 3 5 分 開議

○議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、五十嵐健一郎議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。〔17番 五十嵐健一郎君登壇〕

○17番（五十嵐健一郎君）

清政クラブの五十嵐健一郎です。

通告書に基づき一般質問をさせていただきます。

1、子ども一貫教育等の成果と課題及び今後の取り組みについて伺います。

(1) 全国学力・体力調査の現状分析・課題及び今後について。

(2) 特別支援学校等との交流及び共生社会実現のための取り組みについて。

(3) 英語教育改革に向けての先取り対応について。

(4) 高校の魅力化及び職業教育の高等機関創設について。

(5) 自発学習の推進と子ども夢基金の調査研究について。

(6) 生涯学習の推進策について。

(7) 2020年東京オリンピックの対応策及び2030年冬季オリンピック新潟開催実現に向けた糸魚川市の取り組みについて。

(8) 体験・修学旅行・合宿誘致と糸魚川留学の促進策について。

(9) つり天井落下防止対策の促進について。

2 子どもが産みやすく育てやすい環境及び女性が働きやすい環境にするための取り組みについて。

(1) 高齢者介護施設誘致の調査・検討について。

(2) 地域経済分析及び活性化プログラムの策定について。

以上で、1回目の質問とさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

五十嵐議員のご質問にお答えいたします。

1番目の子ども一貫教育の成果と課題及び今後の取り組みについてのご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願いいたします。

2番目の1点目につきましては、自治体間の連携によりまして特別養護老人ホームを整備しよう

という事例がありますので、事情聴取を行い研究してまいりたいと考えております。

2点目につきましては、現状の人口動態や産業構造などのデータを分析し、今後、策定する総合戦略で人口減少対策として検討することといたしております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もございますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

五十嵐議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目については、全国学力・学習状況調査の結果から、課題は学習に対する意欲と、家庭における学習の習慣化と考えており、今後はさらなる教員の指導力を高めることで、授業内容や指導方法の向上を図っていきたいと考えております。

体力テストの結果については、大きな課題はないと考えております。

2点目につきましては、現在、一部の学校でひすいの里総合学校と交流を行っておりますが、今後、他の学校にも広めてまいります。

3点目につきましては、先取りした対応は計画しておりませんが、今後、英語教育改革について検討を進めてまいります。

4点目につきましては、県立学校の魅力づくりを県に働きかけるとともに、小・中・高校でのキャリア教育の連携を進めなければならないと考えております。

5点目につきましては、児童生徒が自発的に学習する授業づくりができるよう、教職員に指導してまいります。

また、子どもゆめ基金については、現在、調査研究中です。

6点目につきましては、地域の行事に参加する子供の割合は、全国平均よりも高くなっておりませんが、さらに郷土への愛着心を育む人づくりを推進してまいります。

7点目につきましては、ジュニアの育成を重点に市体育協会や競技団体と連携して、大会の開催やジュニア団体の育成支援等を推進し、競技力の向上に努めてまいります。

8点目につきましては、体験教育旅行誘致促進事業や、首都圏の教師を対象にしたモニターツアーなどで、誘致拡大に取り組んでおります。

糸魚川留学につきましては、各ニーズに合わせた受け入れ体制や情報収集に取り組んでまいります。

9点目につきましては、市内の学校でつり天井落下防止対策の対象は9校、11棟であり、今年度、6校、6棟の対策工事を実施し、来年度以降も継続して進めてまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

ありがとうございました。

全国学力・学習状況調査、平成26年度、平成27年も終わりましたが、ここ数年、あまり変わってないんですね。小学生はある程度いいんですが、中学生になって数学A、国語Bですか、これは全国的に下回る、この傾向がずっと続いているんですが、その分析、並びにやっぱり取り組み方を変化させないと、上にいかないんじゃないですか。この辺はやっぱりしっかりと教員指導力向上とか、いろいろ言ってますが、やっぱり小学4年生ぐらいから徹底的に、家庭学習を含めてやらせなければならぬ状況にきとるんじゃないですか。変わりませんよ、全国平均より下回っているんです。その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えいたします。

議員ご指摘のとおり結果となっております。中学生においての大きな課題としては、家庭学習の時間が全国に比べて低いというのが大きな課題となっております。

そしてもう1つの課題は、学習に対する意欲であります。国語が好きというふうな割合が、全国よりも低くなっております。それは国語Bの成績にも、影響しているかなというふうに思っております。ですので、学習意欲の向上と学習習慣の定着ということが、大きな課題となっております。学校訪問においては、この2点について指導してまいりまして、各中学校区でも今、家庭学習強調週間ですとかということで、取り組んでいるところでありますが、より一層、その取り組みを進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

5番目の自発学習の推進、これは福井県でやっていると。福井は学力、体力とも全国ナンバーワンですか。やっぱりここへ教師が行って勉強してもらって、それを皆さん方に研修して、それを取り入れていくような方法というのはできないんですか。やっぱりそのぐらいまで徹底してやらないと。県内的にどうか、ちょっとその辺の数字を教えてもらいたいんですが、全国的には、新潟県では学力はどのぐらいで、糸魚川は順位はどのぐらいなのか、体力では全国では、県内はどれだけなのか。それから糸魚川の順位、その辺の数字はわかりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

学力について県と比較いたしますと、小学生の場合は、算数のBが全国と同じように県よりも下回っております。それから中学生の場合も、全国の結果とほぼ同じ結果となっております。

また、体力につきましては、小学生は県平均とほぼ同程度か、上回っております。また中学生は

県平均よりも、昨年度の結果を見ますと下回っております。ですが新潟県は体力が非常に、全国でもトップクラスでありますので、全国と比べると新潟県の中学生の体力は、それほど下がってはいないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

いやいや、その辺の下回るとか上回る、同程度という結果はわかってます。だから全国的に新潟県が何番で、糸魚川市は全国的に見れば何百番目なのか、その辺の具体的な何をわかれば教えていただきたいと思うんですが、体力と学力、両方。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

順位につきましては、学力のほうにつきましても体力のにつきましても把握をしておりません。特に体力につきましては、昨年度の結果はまだ全国の結果が公表されておりませんので、全国に比べてどうかということは、わかりかねるところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

やっぱり今オープンデータで、しっかりと見ればわかると思うんですわ。その辺、はっきりした数字が出てこんかもわかりませんが、その辺はぜひ把握していただきたいと思います。それにしても、対応をどうすればいいかって考えていかないと。そらわかりますよ、意欲がない、学習習慣がない、低い、そうすれば、どうすればいいかって考えていかなければならない、やっぱり定着してない。教育がよくならなければ、やっぱり移住もしたくない、医者も来ませんよ。いろいろな形で教育がよくなるような仕掛けづくりを含めて、教育委員会がやらなきゃだめなんです。その辺、やっぱりしっかりと把握しながら分析して、どういう活動していけばいいのかと徹底的に、この総合戦略じゃないですけど、総合戦略を教育委員会としてはどうすればいいかって、ぱっと9月ぐらいいまでに出してきてくださいよ。その辺いかがですか、そのぐらいの覚悟はありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

今年度、子ども一貫教育方針の基本計画を作成する予定になっております。そこで到達目標を掲げるように考えておりますので、学力についての数値的な目標、それからいじめ、不登校等についても、数値的な目標を掲げてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

子ども一貫教育は昨年度に方針出して、また基本計画を立てるってわかってます。あれ5年も前からやってるんですよ、日本一って掲げながら。それでもアップしていかない、下回っているんだ。その原因は何かというのをしっかり把握して分析しながら、どうすればええかって。しっかり福井や秋田、勉強してくださいよ。

そこで福井。幼稚園と保育園、小1プロブレム、就学前、小学校入学時の段差を感じさせないように、読む力、書く力、鍵盤ハーモニカ、跳び箱、マット運動、それぞれ幼稚園、保育園でやってきとる。小学校に入ってもその辺の形で、毎日宿題をやる習慣化、小学生からどんどんやっていく形で、本格的には小4ぐらいから定着化して中学生に結びつけていく、その辺を徹底的にやってるんですよ、家庭教育と地域とともに。それで出てくるのが、21世紀型コミュニティ・スクール。コミュニティ・スクール、今回からやろうとしてるんですか、それを考えて。その辺は考えてますか、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

福井の実践につきましては、今、私も非常に興味を持って勉強してるところであります。

また、今年度は職員の研修で、幼稚園、保育園と小学校の接続についてのスタートカリキュラムづくりということを研修に取り組んでいるところです。

福井の教育につきまして、今、議員に教えていただきました自発学習につきましても、私、まだ不勉強でしたので、これから研究を進めていきたいというふうに考えています。

コミュニティ・スクールにつきましては、今年度、ひすいの里総合学校と糸魚川小学校を準備校として指定をし、来年度からコミュニティ・スクールができますように準備をお願いをしているところです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

ちょうど地方創生も含めて総合戦略、教育委員会を抜かしとるんじゃないですよ。教育現場でしっかりやってくださいよ。9月の短期を含めて5年計画とかいろいろありますが、やっぱりやるべきことはやって、教育が一番私は根本だと思うんで、そこをしっかりとっていかないと、移住、定住も含めてできんと思うんです。そこをしっかりとって、出ていきますよ、頭って言やおかしいですけど、やっぱり学力の低い方がおる形がとられてるんで、福井は出ていっても戻ってくるような体制をとっとるんですよ。それで起業して、自分たちで稼いで、女性も来てる。その辺も含めて地域全体でどう取り組むかっていうのが一番大事なんで、その辺も含めて教育の大切さというのは一番わかると思うんですが、その辺いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

昨年度、子ども一貫教育方針の検証を行っていただきました際、各委員の皆さんからお声をいただいたのは、やっぱりこれからもっとも地域ぐるみの、市民ぐるみの教育にしていかなければいけないということをご指摘をいただきました。幼・保、小・中という連携はとてもよくできているけども、今度は地域と学校との連携ということが大事だろうと、そこが一番大切だと。市民ぐるみで子供たちを支えていくということが大切だというご指摘をいただきましたので、そういうことも受け、コミュニティ・スクールということ子ども一貫教育方針を進める際の1つの手法として、考えていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

それで、学力テストの平均が低い原因は何かという本当の追及に入るんですが、子供たちの先ほど意欲もあった、学習の習慣化も強いんですが、厚生労働省、2014年度、全国の児童の6人に1人が貧困状態である、その辺もあるんですね。非正規雇用が固定化したこともございまして、子供が塾に行けなかったり、きちんとした食事をとっていないとか、総体的貧困がふえてると。家庭の貧困が学力に影響されていると厚生労働省は言うてるんですが、糸魚川の実態というのは、その辺の把握はしてるのかどうか、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

貧困と学力のことにつきましては、まだ十分分析をしておりますが、学習塾のことを申しますと、学習塾で勉強してるかという調査につきましては、小学校では全国よりも低くなっておりますし、中学校でも全国よりは10ポイント以上、下回っておる結果になっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

塾へ行った行かんではなく貧困状態、今、聞いとるのは全国では6人に1人が貧困状態なんですが、糸魚川の状態はどうか。よけりゃよいと言ってください、その辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

障害児関係を取り上げていくと、障害児関係もふえています。それから確実にふえているのが準要保護だと思えます。したがって、子供たちの家庭の中に、貧困化がだんだんだんだん進んできていると。これはそういう考え方をして間違いないかなと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

その辺がふえてるいろいろありますが、その辺、何%なのか、その辺の把握というのは、具体的にわからんならわからん、わかるんなら言うてくださいよ、しっかりと。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

そこら辺の判断材料の1つとして、就学援助を受けている子供の割合という数字でしたら、一定の率はお示しできるかと思うんですが、今、手元にございませんで、わかり次第、またご報告いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

後で結構なんです、やっぱりその辺も把握しながら、塾へ行ってない子供が小学校も低く、中学校も10ポイントぐらい全国平均より低い。その辺になってくれば塾へ行けばいいとかでなく、そういう方々を県内で4市が学習支援をやっとるんですよ。教員OB、大学生無料教室、そういう方々も上げていかな、レベルアップしていかな、低所得者世帯の子供たちを県内4市で学習支援をしてるんですよ。わかってますか。その辺、かなりのところがやってるところを見習ってくださいよ、どのぐらいおるかを把握しながら、その辺は支援していかならんんです。全国的には6分の1なんですから、その辺を把握しながらやっていっていただきたい。

それと、いろいろな形で今、コミュニティ・スクールもございました。地域一体になって、そういうOBの方々も一緒になって夜でもいいし土日でもいい、いろいろな形で補習や、そういうできるところを設置しながら、各方面に3つばかりでいいですよ、能生、青海、糸魚川とかを含めて、今、中学校単位でいいんですから、その辺も含めて補習授業をどんどんやっていってくださいよ。学校でできないことを地域で、全体でやっていかならん状態が、今、上がっているんですよ、増加しているんで、ぜひお願いしたいと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えいたします。

今年度、中学生の補習授業を予算化をいたしまして、各中学校区に教員のOBの方等を、1名か2名になってしまうんですが配置をし、補習授業を行う計画になっております。今、学校と打ち合わせを行っております、テスト前の質問教室ですとか夏休み中の補習に、その方々に援助をお願いしたいということになっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

本当に一、二名でなく、やっぱり先ほど言うた4中学校単位で最低1人とか、いろいろな形で補えると思うんで、その辺もぜひ検討していただきたいと思います。

それでこの教育委員会全体を見ますと、教育委員会制度改革もございます。それで総合教育会議の設置というのはいつ行う予定なのか、その辺のめどを教えてくださいと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

岩崎総務課長。〔総務課長 岩崎良之君登壇〕

○総務課長（岩崎良之君）

6月24日に第1回の会議を開催する予定です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ、その中で設置するのが全国的に言われとるところで、その辺も含めて、総合戦略も含めて、やっぱり教育委員会としてどうすればええか。今、市長が入っているいろいろな形でやる方向を、市長部局もタイアップしながら、やっぱり教育の改革も含めて糸魚川市としてどうすればいいか、子ども一貫教育基本方針も出ましたが、基本計画も含めてやっぱり短期でやれるところはやってください、しっかりと9月までに。

ということで英語のほうなんです、英検、今のところ各種検定受検者補助金とか含めて、英語検定はどのぐらいの確率で準2級とか3級、4級とか、今現在、中学生、何名がその級に当てはまるのか、教えてくださいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

英検のそれぞれの級の認知につきまして、今、資料を持ち合わせておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

英検の各級については、人数をこれから確認をしなければいけないのであれですが、英検の補助を始めたころの全体に占める、中学校の在籍数に占める割合というのは、受験者が29.23%だったんですね。それが平成26年度になって49.25%まで上昇してきております。これは学校が子供たちに働きかけてくれた結果、子供たちがその気になって取り組み始めているって部分ではないかなということで、実は喜んでいる部分です。

それから昨年度実績でいきますと、昨年度だけでその受験者の中の数字を見ていくと、準2級が20名受けて4人合格、それから3級が95人受けて60人合格、4級が199人受けて145人合格、5級が245人受けて196人合格というふうに、それぞれの級に挑戦している子供たちの数が多くなってきているということで、ご理解いただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

それでパーセント、国が示しているのは中学校卒業段階で英検3級程度以上を達成した中学生の割合が50%を目標、50%ですよ、人数、それを目標にして行われている。それで文部科学省が出している全中高校生に英語新テスト、これも導入が決まっていますよね。やっぱり大学受験でも4機能の到達度をはかる。英語を朝の会話だとか、いろいろな形でやっぱりグローバル化の時代なんだから、今、その辺も含めて英語特区をスタート。

岡山県の総社市ですか、これも幼稚園とかいろいろな形で特区制度をやりながら、ヒアリング、スピーキングを重点に置いて英語教育をやっている。このくらいやっていく必要が、私は必要だと思うんです。やっぱり外国人が来たりしたら、大人は対応できるかどうか分かりませんが、子供が対応できるような形をとって、受け入れをして、会話していただく。そのくらいできるような子供たちを育てれば、やっぱり子供たちも留学したくなったり、移住したくなったりするような方向があると思うんですが、その辺の考えはないんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えいたします。

県でもグローバル化、グローバル人材の育成ということが重点の1つとなっております。また、新しい指導要領が間もなく出されると思いますが、2020年度から完全に実施されるのではないかと思います。今、5、6年生から週1時間行っている外国語活動が3、4年生におりてきて、5、6年生では週3コマ程度、教科化というようなお話も出ておりますし、中学、高校ではオールイングリッシュで授業を行うというようなことも出ております。何よりも教員の英語力、指導力の

向上というのが、最大の課題ではないかと思っております。

現在、市内の小学校の教員１名と中学校の英語担当２名が、県の研修を受講しておりますし、また、別の小学校の教員１名が中央研修に参加することになっております。そういった教員を核として研修を行い、他校の教員に伝達をしてレベルアップを図っていくということを考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○１７番（五十嵐健一郎君）

ぜひ、今、人数聞きましたが、それらが本当に下におりて、すぐ皆さん方に教えられるレベルになっとるかっていうのは、なかなかそこまでいかないと思うんで、その数を、研修人材をふやして、それを福井で言う丸テーブル方式で皆さんに教える方式、専門家が違うところでいろいろなディスカッションしながら高めていって、そのやっぱり教師、指導者づくりですよ、やっぱり人材育成、それが必要だと思うんで、ぜひお願いしたいと思いますし。

先ほど言い忘れたんですが、子ども一貫教育の基本計画を策定するに当たって、やっぱりここにおる人だけでなく企業人からも入っていただいて、やっぱり子ども一貫教育を策定する必要があると思うんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

今年度の基本計画を策定する際に知・徳・体、そして特別支援教育、ジオ学習、キャリア学習につきまして、それぞれの分野で検討していただきたいと思います。その中にキャリア教育もございますので、地域の方々の青年会議所の方ですとかというような方にも委員になっていただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○１７番（五十嵐健一郎君）

ぜひ。後で出てくる体験とか、島根県の海士町でないんですけど、夢探求、夢ゼミ、やっぱり今必要なのは、子供だけでなく親の教育、親業ですよ、親業も必要。人間的にどうか、人間形成、他人力なんですよ、他人力、それが必要になってきているんで、やっぱりいろいろな形で企業人も巻き込みながらどうするか。

そこで専門職業大学構想、ここに言う職業教育の高等機関創設、この辺も含めて、ただキャリア教育とかやっとなんではなく、ここに誘致するぐらいの形はいかなもんかって、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

先日の報道によりますと2019年度、政府からの開校を目指すとした職業教育を、新たな高等教育機関についての報道がございました。まだ具体的なことが明らかになっておりませんので、そういった情報を注視しながら、中高生にとりましても新しい進路の選択肢の1つとなってくると思いますので、また詳しく情報を得ながら、そして市としてどういうことができるのか、情報を集めていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ。情報を待てば、いつになるかわかりません。ビッグデータとかいろいろな形で情報を収集しながら、頭で考えて行動ですよ、計画と同時に行動をどう起こすか。3月のときに斉藤商工農林水産課長にも言われました現場主義、現場でどんどんやってくださいよ。やるように頭で考えて、市長に提言してどうすればええかっていうのを、これはやれる、やっぱり優先順位をつけてもらって、その辺やっていると糸魚川市は生き残りできません。ぜひやっていただきたいと思いますし、高校改革、後に保坂議員もありますが白嶺高校、今、海洋高校はすごい頑張ってるんですが、白嶺高校も糸魚川高校も3つの高校があるんで、3つの高校が、今、高校改革が叫ばれてる中、皆さんがやっぱり火つけ役ですよ。高校に言いながら職業のしょうをどうすればいいか、子供たちはどうやったら入れるか、全国から入れるような白嶺高校、糸魚川高校にもしていただきたいし、その辺になれば、やっぱりスポーツもありながら、文化もありながら、やっぱり学力も上げていかんなんと思うんですわ。その辺は、いかが考えているんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

海洋高校は今年度から、オンリーワンスクール・ステップアップ事業という県の事業の指定を受け、地域に根差した活動を進めているところです。今まで高校の校長先生方と教育委員会とで協議したりという時間、機会を持つことがなかなかできませんでした。ですが今年度、中学校、高校の校長会の際に教育委員会から出向いて、高校の校長先生方にも市の方針、また、中学校との連携について、依頼をしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

今、予算的にもいろいろな形で幼・保、小・中・高連携でやっていくという時間がないって、これからやっていくんじゃ遅いんでないですか。予算化されて何もやってないのと一緒でしょう、

子ども一貫教育、１８歳までなんじゃないですか。その辺を含めて、しっかりとやっていっていただきたいと思いますが、今言うてればしょうがないんで、やってなければやってないんで、ぜひその辺も含めて、短期にできるところからやっていただきたい。

それと子どもゆめ基金、私も３月に言わせてもらった中で調査研究をすると教育長は言われましたが、まだ調査研究なんですか。３カ月たってのんですよ。これも総合戦略を立てるが、あと３カ月なんですよ。やるかやらないか、はっきり、優先順位はいろいろあるでしょうけど、これをやりながら、募集しながらどうするかというのを考えていくのは、子供に夢を与えるのは必要なんじゃないですか。その辺はどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

燕市の子ども夢基金については非常に興味を持っているところでありますが、まず、市でできることを精いっぱいやるということが、第一ではないかなと考えています。市民の皆さんのご理解やご協力がないと、この基金を募るということもできないと思いますので、まず、どういう目的で、そして子供たちのために、地域の皆さんたちが応援しようという気持ちを皆さんで持っていただくということが、大前提になってくるかと思います。

そういった面でも、燕市の子ども夢基金につきましては今後の情勢を注視しながら、教育にどういうふうに取り組んでいくのかということについて注目をして、情報を集めて、今現在しているところでは、昨年度の３月のときに九千何百万円でしたか、基金が募ってあるということを見させていただきましたが、これからそれらをどういうふうに使われていくのかという件についても、情報を集めていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

先ほどお答えできませんでした就学援助における要保護と準要保護の児童生徒、これの生徒数に対する割合ということで数字を申し上げます。

小学校では対象が２３２人、全児童数２，０６６人でございますので、８．９人に１人という形になっております。これ平成２６年度の数字でございます。中学校におきましては対象が１５０人で、全生徒数１，１３９人に対しまして７．６人に１人の割合ということでございました。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○１７番（五十嵐健一郎君）

全国平均では６人に１人ですが、それよりもちょっと上回ってるんですが、その辺も含めて、ま

だやっぱりそういう形も含めてフォローアップできるような体制も必要だと思いますし。

ゆめ基金、先ほど私が言うたのも含めて、それで子ども一貫教育でどうすればいいのかって、それ使うところはいっぱい教育現場にはあると思うんで、海洋高校もそうやって能水会ですか、そういう形で集めたり、いろいろな形で。言えばやっぱり来ると思いますよ、子供はかわいいんだから、いろいろな形で利用すれば、優先順位つけてこれに 1、2、3 番目ぐらいのところで、何をやっていけば。先ほどの白嶺高校も、どうすればいいかって考えてもらえれば集まりますよ。ただ三条がやって情報を把握しとるだけではだめなんですから、ぜひその辺も含めて、やっていただきたいと思います。

それと次、東京五輪、パラリンピックも含めてですね、この東京五輪の首長連合ですか、全国 170 自治体で首長連合をつくって、三条の國定市長が会長で、5 年後に向けて各地の特産品とか、新しく開発した製品を海外に販売するための通信販売のシステムや、外国人観光客の誘致のために広域的な観光ルートなど、互いに連携してつくることを確認した。いろいろな形でやっとなんですけど、この辺は糸魚川市は入ってるのか。ぜひ入ってもらいたいんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

○企画財政課長（藤田年明君）

たしか入っていると思っています。入っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17 番（五十嵐健一郎君）

3 月のときに、使えるのは陸上競技場と民間のゴルフ場があると言ったんですが、その辺の種目とか候補地になったんですが、その辺はいかがですか。パラリンピックも含めて、その辺の合宿誘致はどうなんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

佐々木生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 佐々木繁雄君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

今現在、議員がおっしゃられるように陸上、またゴルフ、ラグビー、これについては、ことしの 2 月に合宿誘致の報告をさせていただきまして、今、まだ県のほうで集約をしている最中でありま。今後、事前キャンプ地候補地のガイドへの掲載、または全国知事会のオリンピック推進本部のスポーツのデータベースということで、活用されるというように思っております。まだ正式にはオーケーということではございませんけれども、今、そういうような状況であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○ 17番（五十嵐健一郎君）

ぜひそういう合宿誘致も含めて、オリンピックだけでないんですよ。この前、登山の部で県大会があったり、そうなるとちょうど中心部の北信越大会でいろいろやったり、今、相撲も頑張っていますし、北信越大会、糸魚川で野球やったりとか、いろいろな形で武道も含めてできるところがあるんですから、大きな大会は上越の武道館に任せて、こういういろいろなローカルな大会だとか、いろいろな形でできると思うんですが、その辺も含めて合宿誘致、選手育成、指導者育成も含めて、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

佐々木生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 佐々木繁雄君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

今、議員がおっしゃられるように合宿の誘致、非常に市も平成20年度から実績がございますので、そういう面も含めて体協、また、関係の団体と協力しながら、そういう枠の広がりを見せるような施策を、展開してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○ 17番（五十嵐健一郎君）

ぜひお願いしたいと思いますし、2030年のこの冬季オリンピック新潟開催、これも参議院議員の塚田一郎さんが、かなり力を入れてやって県内でもどうするか。会もできて候補地まで、どこで何をやるかというのも決まってきておるんで、それを目指してやるのが、今年度が北海道と対応する、今年度なんですよ。今年度どうするかって、もう決まってくる。その辺も含めて、やっぱり情報を流してくださいよ、持っとらんで。もうデータベースとかいろんな形で、ビッグデータも含めれば、かなりのことが進んどるんで、糸魚川としては何の種目。なんか余るところはスキー場が2つもあるんですから、いろいろな形で何ができるかっていうのを準備していく、もう2030年、15年前のこともやっていかんなんですよ。地方創生は2060年ですか、それも目指して、その辺いかがですか。全然検討も何もないんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

佐々木生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 佐々木繁雄君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

2030年の冬季オリンピックの新潟開催の実現に向けてということでございますけれども、明確に県のほうからこうすべきであるとか、協力を願いたいという情報はまだ入っておりませんけれども、今、塚田議員のいろいろホームページ、また、いろんな情報を見れば、過去、国内で2カ所、北海道と長野県で行われたわけでありまして、冬季オリンピックというそのものが、非常に地域の限定されるところでありますので、新潟県も非常に有力なところであるというふうに思ってお

+

ります。

前回のソチの五輪でも、日本人が11人メダルをとっておりますし、選手団を見ても6割以上が北海道、新潟県、長野県で占めているという状況からして、決して可能性がゼロではないというふうに思っておりますけれども、大変膨大な事業の予算の措置も必要でありますし、新潟空港の整備、また、そういうさまざまなインフラの整備も含めて検討する必要がありますので、今後、情報の収集に向けてやってまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ。今、札幌市の動向も踏まえて、新潟県としての立候補の最終判断は今年中に行う必要があるんです。その辺も含めて、やっぱりもう切羽詰まってるんですよ。県ですから手を挙げるかどうかも含めてなんですが、糸魚川としてもやっぱりいろんな形で、妙高のジャンプ台を使うとかいろいろ決まってるんですから、糸魚川として何の種目。そしてパラリンピックもあるんですから、その辺も含めて何を誘致できるかを早目に手を挙げてないと、すぐ取られますよ。やっぱりスノーボードの糸魚川中学校の伊藤さん、それで今、根知の佐藤栄一さんとか、それで歌川選手だとか、いろいろな形で選手もおるんです。それでコーチ陣もしっかりしてる。そうなれば、やっぱりいろいろな形で何かができると思うんで、それから合宿誘致も含めてぜひやっていただきたいと思うんですが、その辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

佐々木生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 佐々木繁雄君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

また同じ答弁になりますけども、前向きに情報収集して、アンテナを張って検討してまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ。これを見ますと、やっぱり絡んでくるのがあるんですよね、新潟冬季オリンピック。それで出てくるのが、上越、妙高からフリーゲージトレインなのか、糸魚川からのフリーゲージトレインなのか、その辺の整備も含めて15年後なんだから、その辺も中に塚田先生のがには入っているんですよ。やっぱりその辺も具体的に、何を整備していくのかっていうのが全部絡んでくるんで、ぜひその辺も情報収集して、早く進めていただきたいと思うんですが、その辺、何かいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

フリーゲージトレインについては、新潟県のほうでも非常に注目をしているような県知事の発言もございます。私どもといたしましてもフリーゲージトレインの技術開発の動向等も含めて注視をしながら、ぜひ乗りおくれぬように取り組みをしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

この前、泉田知事にも来ていただいて、上越、妙高だけではなく、糸魚川も優先順位に入っているということもおっしゃっていただいたんで助かったのですが、候補地は妙高のジャンプ台ですんで、その辺も含めて取られぬようにぜひお願いしたいと思っております。

それと、いろいろな形で、3月のときにも言わせてもらったんですが、十日町でスポーツコミッション、スポーツと観光と医療という形で連携した中で合宿誘致や、いろいろな形でやっていくと。そういうところに手を挙げる必要もあるかと思うんですが、体験とか修学旅行誘致も含めて、その辺いかがでしょうか。やっぱり考えとるのはあるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

市では昨年度から体験教育旅行誘致促進事業補助金という制度を設けまして、お1人泊まれる方について500円の補助をしているところでございます。昨年度の実績でありますけども、約5,300人泊の実績がございました。この人泊というのは、10人が2泊すれば20人泊ということで、延べ5,300人ということですが、この補助金を使われた中で、新たにこの補助金を使われた方が2,200人泊ということで、約4割がこの補助金の成果かと言えるかどうか分かりませんが、少なくとも4割の方が新規でお泊まりになられたということでございます。こういった制度を使う中であらゆる方面から、糸魚川で宿泊をしていただきたいという取り組みを進めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ。初日の市長からの行政報告でありましたように、おくのほそ道の風景地ネットワーク設立総会、来年もでございます。やっぱり文化も含めてスポーツ、いろいろな形でトータル的に、やっぱり糸魚川はどうすればいいかというのを考えていく必要がございますし、今、5,000泊以上ですか、いろいろな形で出て結びついてきてる。

今、新幹線効果、だんだん下がっていくと思うんで、そういうのも絡めてチーム市役所、チーム糸魚川全体で取り組んでいていただきたいと、こう思っておりますが、先ほどあった糸魚川留学、海士町でやってる島留学、それ中学生や高校生を4泊5日の形で呼んで、隠岐島前高校に入学させるような方向性、この島はいいんだ、糸魚川はいいんだっていう形で、そういうのも必要だと思うんですが、糸魚川留学、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

相撲のまち糸魚川という中で、今、海洋高校、それから能生中学校に14人の方から来ていただいております。この方が、まさに糸魚川留学の1つの形だろうと思っております。

いずれにしましても糸魚川の地域資源を見出す中で、いろんな形でこういったお子さんたちに来ていただけるといったものに、取り組んでいきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ。聖学院も30周年ですか、やっぱり聖学院の方々もすばらしいし、また、違う方々も呼べるような方式。いっぱい3校も4校も呼べじゃないですけど、やっぱりそういう形で、どんどん結びついていけるような形は必要だと思うんですが、そういう取り組みもやっていただきたいと、こう思っております。

それと1の（2）特別支援学校も含めて、やっぱり交流をしっかりとってください。交流が少な過ぎます。障害児（者）も含めて健常児とともにやっていくような教育も含めてやっぱり心を、今、精神的だとかいろいろな形も出てきとるんで、そういうのも必要だと思うんで、交流をしっかりとっていただきたいと思う。

それと糸魚川だけでなく、近隣からも障害児（者）を呼べるような体制づくり、この辺は共生社会も含めて、その辺いかがお考えでしょうか。やっぱりそういう方々を受け入れるような糸魚川にしてほしいんです。その辺はどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

今、ひすいの里総合学校との交流を行っているのは、主に糸魚川小学校と、それから白嶺分校なんです。この輪をできるだけ広げていきたいと。まず、市内で障害を持った子供たちに対する理解を深めていく必要があるであろうと思っております。そういう取り組みを最初に行っていかなければいけないと思いますし、今、議員言われた他地域からの障害者の受け入れということも、これも重要なことなのかなという思いはしております。少し研究させていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ。調査研究、聞いて何カ月も放っておかないように、ぜひ。やっぱりしっかり、だめなものはだめ、やれるものはしっかりバーンと深く研究しながら、どう取り組むかもしっかりやっていただきたい。

それと高齢者の関係で介護施設誘致、これも3月にやらせていただいた南伊豆町と、どこですか、東京の杉並区ですか、その辺も含めて。やっぱり糸魚川は、そこで雇用を生み出すような形っていうのは、先進地はやってるけど、二番煎じかもわかりませんが、そういうのは必要だと思うんですが、その辺の具体的な調査研究、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

今、議員おっしゃられました東京都杉並区と静岡県南伊豆町の特別養護老人ホームの整備についてでございますが、昨年の12月に、この南伊豆町と杉並区、それと静岡県とで協定が結ばれたということの情報はいただいております。

また、特別養護老人ホームを誘致するに当たりましては、それぞれの県の介護保険の計画、また、南伊豆町の介護保険の計画にも載せる必要があるというふうにも、この情報ではあります。また、この2つの行政につきましては、昭和49年からの深いかわりがあるというふうにも伝えられておりますので、まず、そちらのほうの姉妹都市でありますとか、そちらのほうの交流を密にしながら進めていく必要があるというふうにも考えております。

また、施設整備をする中におきましては、介護施設での従事する介護職員の不足ということも、今現在、糸魚川市の中ではあります。そういう部分では底辺を広げるような取り組みを、今現在しているところでございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

聖学院とか世田谷区ですか、いろいろな形も出てくる。いろいろな形が出てくると思うんで、その辺も含めてやっていただきたい。

それと、この長岡発、消滅してたまるかというのを2年前からやって、八十何人の方々から出していただいた。長岡をどうするか、必要になってくる。提案型市民主役事業、私は必要だと思うんですが、その辺はこの総合戦略でいかが考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

○企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

今回、策定している総合戦略につきましては、産官学金労言ということで、とにかく多くの方の意見を聞き、そしてそれぞれが、それぞれの役割分担ができるようにということで、いろんな説明をする中で、それぞれ考えていただいて提案していただいたり、自分たちでできることはしていただくという中で、戦略を立てるという形になっておりますので、そういう中では多くの方から意見をお聞きしながら、戦略のほうは立てていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ市民だけでなく、市民外からも提案をもらえるような糸魚川にしていっていただきたいことを言わせてもらいまして、一般質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

○議長（倉又 稔君）

以上で、五十嵐議員の質問が終わりました。

次に、保坂 悟議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。〔6番 保坂 悟君登壇〕

○6番（保坂 悟君）

公明党の保坂 悟でございます。

発言通告書に基づき1回目の質問を行います。

1、糸魚川市の品格とおもてなしの心について。

糸魚川市が50%出資している株式会社能生町観光物産センター（三セク）において、「かにや横丁」が4月にリニューアルオープンしました。しかし、9軒あるカニ屋のうち1店舗だけが、古い施設で営業を行う「いじめ」の光景を買い物客にさらしております。糸魚川市の品格やおもてなしの心を損ねております。三セク側の店舗配置により、一審判決で敗訴した本質が「排除といじめ」にあることを証明しております。そこで、以下の点を伺います。

(1) 一審で敗訴した三セクが、勝訴した店舗に「いじめ」の店舗配置を行う意味は、「裁判の結果にかかわらず排除します。」という意思表示になりますが、市はどのように受け止めているのか。

(2) 糸魚川市の観光拠点での「いじめ」行為は、交流人口拡大の施策に支障があると思いますがどうか。

(3) 子どもたちが出入りする施設（三セク）の「いじめ」行為を、教育委員会として断固抗議すべきと思いますがどうか。